

令和5年度 学校自己評価書・学校関係者評価書

鈴鹿市立白子中学校						NO. 1		
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	R3実績	R4実績	R5現状	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点	
成果指標	◇ できる・わかる喜びを感じている生徒の割合(学校ア) ◇ 学校の授業が楽しいと感じている生徒の割合(学校ア) ◇ 毎日1時間以上家庭学習をしている生徒の割合(学校ア)	87.5% 77.6% 47.7%	82.3% 74.5% 58.2%	84.1% 73.8% 53.0%	【総括】 ○継続して取り組んできた人権教育の成果によって、校内の雰囲気安定してきているとともに、学力の向上も見られる。 ○今後も、これまで継続してきた人権教育の取組を大切にしながら、授業づくりや授業改善等を組織的に行うことで、生徒のさらなる学力向上を目指す。 ○校内研修や教科部会を充実させ、ICTを活用した授業や課題づくりに取り組んでいく。また、家庭学習の定着にもつなげていく。			
学力向上	教科部会を活用した授業改善	・授業の工夫、改善を組織的に行っていると考えている教師の割合(鳴門ア) ・学校の授業がわかりやすいと感じている生徒の割合(学校ア)	95.3% 86.0%	92.7% 84.8%	93.6% 87.2%	○教科部会を活用し、授業の工夫、改善を組織的に行うことができた。生徒の理解度の向上につなげることができた。 △さらなるICTの活用や個別最適化などに対応できるよう、日々情報収集や研修を進め、各教科の授業にいかしていく。	・生徒それぞれ理解力に差があるので難しい課題である。 ・教科部会の強化で、理解度が向上するなど、ICTの十分な活用が必要。(他地域との情報交換は計るなど) ・授業の工夫や改善で日々「実」を付けているので評価したい。 ・学校の授業がわかりやすいと答えている生徒が多いのは、先生方の努力の生徒だと思えます。	・個々の生徒の理解力を考慮しながら、より「分かりやすい授業」を考えていく。 ・他校や他地域の活用方法も取り入れながら、教科部会で共有・活用していく機会を設けていく。
	学びあいの場の設定	・グループ活動など仲間と課題解決に取り組む機会を作っている教師の割合(学校ア) ・授業でわからないことを、友だちに聞くことができる生徒の割合(鳴門ア)	84.2% 93.5%	82.0% 90.5%	87.1% 91.0%	○積極的に学びあいの場を設定することができた。仲間と取り組むことを大切に、わかる授業の取組が進められた。 △生徒のつながりをさらに深め、すべての生徒が「対話的で深い学び」ができるよう、現在の取組をさらに進めていく。	・生徒間のつながりが見えるよう望ましい。 ・グループ活動を積極的に行う指導。 ・対話的活動から学ぶことが沢山あるので成果が出る評価は「大」である。 ・生徒同士で教え合いをするのはとても良いと思います。教わる側だけでなく教える側も学びになります。	・引き続き、各教科において、積極的にグループ活動を取り入れる。 ・人権、道徳、総合の時間においても、グループによる対話的活動を取り入れる。
	ICT等を活用した授業	・学習効果を考えてICTを活用している教師の割合(学校ア) ・先生が、わかりやすく授業を工夫してくれていると感じている生徒の割合(鳴門ア)	— 94.6%	— 94.0%	75.8% 94.2%	○ICTによる工夫を中心に教師が教科部会や研修を活用してわかりやすい授業を提供する取組を行うことができた。 △校内研修・授業研修を通じて、教師がICTの活用方法を学ぶ場を設定することができた。しかし、実際に効果をj考えて活用するに至っている割合は少ないので、さらに研修を進めていく。	・教師の頑張っている姿が感じられた。 ・教師がICTの活用方法等もっと研修等で理解を深めることが必要。	・引き続き、教科部会や研修を活用してわかりやすい授業作りを行っていく。 ・教員がICTを活用した授業を実践に移せるように、習熟度別の研修も視野にいれていく。また、教員同士で実践を見せ合うこともしていきたい。
	家庭学習の定着	・よく宿題を出していると考えている教師の割合(学校ア) ・学校の授業で、よく宿題が出されると感じている生徒の割合(学校ア)	44.7% 61.2%	50.0% 70.6%	56.5% 83.9%	○生徒には「毎日の生活・学習ノート」や「スタプロ」など毎日取り組む課題を与え、家庭学習の定着を目指すことができた。教員の意識も上がってきている。 △今後も家庭学習に取り組むような課題を与え続ける必要があるが、その量が生徒の負担にならないように配慮していく。	・簡単なようで難しい課題である。 ・家庭学習の時間を設定して確実に机に向かう時間を、各生徒の決定させる。 ・思ったよりも家庭学習の取組が低いので自主学習の取組から指導した方が良いのではないかと。 ・家庭学習の定着は大切だと思います。部活で忙しい中、難しいとは思いますが、頑張ってください。	・これからも家庭学習への取り組みを促していき、あわせて学習時間の目安や取り組み方も伝えていく。自主学習の設定が難しい生徒もいるので、個別の課題の設定の仕方や宿題の出し方も工夫していく。
	主体的な学習の喚起	・学習課題に意欲的に取り組めるよう、指導の工夫を行っている教師の割合(鳴門ア) ・授業中、進んで発言したり、考えを発表したりしている生徒の割合(鳴門ア)	100% 52.3%	97.5% 46.5%	95.2% 47.3%	○教科部会を活用して、授業づくりや教材について話し合うことができた。 △挙手の発表だけでなく、小グループでの話し合いでも自分の考えを発言できるように、これからもエンカウンターや認め合う活動を通して安心して自分の思いを伝えられる雰囲気をつくっていく。	・何が理解し難いのかを把握しながら指導をすれば良いのでは。 ・グループ内での発言ができるように指導して欲しい。 ・授業中の発言が少ないのが気になります。思春期なのかもしれませんが、頑張って自分の考えを発表して欲しいです。	・学級での関係づくりや、互いを認め合う取り組みを行うことで、自分の考えを安心して言い合える仲間づくりをめざしていきたい。 ・生徒の困り感にこれからも耳を傾け、実態にあわせた指導を行っていく。
	図書室の利用促進	・学校が読書習慣の大切さを指導していると捉えている保護者の割合(学校ア) ・学校図書館での一人当たりの年間貸出冊数	74.1% 1.27冊	68.0% 2.80冊	72.9% 2.57冊	○授業中の利用により貸出冊数を維持できた。 △仮設校舎により、利用者が減った。また会議等で図書室を使ってしまうことも今後の検討事項。	・学校の環境状態にも問題があるように思われる。 ・読書が国語力のUPにも大きく影響していると聞きます。この時期にたくさん本に出会って欲しいです。 ・生徒が図書館へ行ってみたいくなるような環境づくりをお願いしたい。 ・ノーマディア運動などで家庭における読書活動の啓発を今後もお願いしたい。	・国語の授業だけではなく、様々な教科での利用を促す(図書室に行く機会を増やす) ・生徒が楽しめるような図書館を作る
成果指標	◇ 自分の進路について考えている生徒の割合(学校ア) ◇ 将来の夢や希望を持っている生徒の割合(鳴門ア) ◇ 生徒会活動・委員会活動・係活動に積極的に取り組んでいる生徒の割合(学校ア)	72.4% 68.5% 85.3%	74.4% 69.3% 83.0%	79.5% 71.9% 79.2%	【総括】 ○3年間を通して系統的な進路学習を行うとともに、自己実現に向けて、学年や個に応じた進路指導を行っていく。 ○多様化する進路に対応できるよう、進路に関する学習および指導の充実と最新の情報を発信していく。 ○今後も、学級活動や生徒会活動において、生徒が自主的・主体的に活動できる場をつくっていく。			
キャリア教育	地域等の協力を得たキャリア教育	・人の役に立つ人間になりたいと考えている生徒の割合(鳴門ア) ・地域のいろいろな活動に参加したいと考えている生徒の割合(鳴門ア)	94.2% 60.0%	95.1% 61.7%	93.4% 60.3%	○「子ども食堂」などの地域行事に積極的に参加する生徒の姿が見られた。また、コロナ禍で実施できなかった地域のお祭り等に、吹奏楽部などが積極的に参加し、地域の一員として行事を盛り上げることができた。 △部活動以外の生徒についても、地域の行事に自然に参加していけるように声かけや雰囲気作りを心がけていきたい。	・地域との連携活動の重要性等を知らせてあげる。 ・桜島地区での「子ども食堂」の運営にボランティアで参加して、地域のひととのコミュニケーションができるようになって欲しい。 ・稲生地区「子ども食堂」のボランティアに積極的に参加している生徒に対しその評価・PRをして欲しい。 ・人の役に立ちたいと考える生徒が多いのはとても嬉しいですが、まずは地域の活動に参加して欲しいです。 ・夏祭りや公民館の文化祭など地域の行事に参加し盛り上げてくださることで、地域活性化が生まれ、活気ある街づくりの担い手となってくれるよう切望する。	・学校支援ボランティアなど、地域人材の募集と活用を検討していく。 ・出前授業や講師を招いての講話を、オンラインで行う方法を検討していく。 ・各地区での子ども食堂等に積極的に参加している生徒の活動を学校内外にPRしていくとともに、地域の夏祭りや文化祭に積極的に参加していく。
	生徒会活動等の充実	・生徒会や委員会活動、係活動に積極的に取り組んでいると考えている教師の割合(学校ア) ・ボランティア活動に参加したいと考えている生徒の割合(学校ア)	93.0% 52.0%	86.0% 57.0%	85.5% 55.3%	○生徒会独自の取り組みである「キキミ」を通して、学校内の意見を活動に生かせることができた。 △文化祭を4年ぶりの3学年合同で開催し、生徒の主体的な様子を見受けられる一方で、感染対策等のたくさんの改善点が見つかった。	・生徒の主体性を尊重しながらの今後を大事にしてあげたい。 ・地域ボランティアに対してもっと積極的にPRして欲しい。 ・文化祭開催にあたり、「3年生の合唱」に招待していただき、各クラスの個性と個々のエネルギーな若い力を強く感じた。	・ピンクパワー運動や、学校レクなどを行い、学校全体を巻き込むイベントを行うことができた。 ・委員会活動と生徒会が連携することができなかったため、来年度は学校全体で活動したい。
	進路学習の充実	・将来の進路や職業などについて適切に指導していると考えている保護者の割合(鳴門ア) ・進路についての情報を適切に発信していると考えている保護者の割合(鳴門ア)	73.5% 69.6%	78.1% 70.1%	82.5% 70.6%	○民間企業団体による出前授業や卒業生である高校生の協力を得た「ようこそ先輩」など、積極的に進路学習を行うことができた。また、職業調べなど、計画的な進路学習・進路指導を行うことができた。 △Web出願をはじめ、進路にかかわる最新情報を生徒・保護者に今まで以上に発信していく必要がある。	・教師たちの努力が目に見えるよう今後も持続して欲しい。 ・各地区の出前授業を取り入れて、人生経験の話を聞いて、これからの生きていく術を学ぶのも良い。	・各学年に応じた進路学習、進路指導の充実を図り、学習の成果を家庭に発信できるようにする。 ・進路に関する情報を発信していく。 ・今後も、外部人材を学校内に招いて、積極的なキャリア学習を行っていきたい。

令和5年度 学校自己評価書・学校関係者評価書

鈴鹿市立白子中学校						NO. 2		
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	R3現状	R4現状	R5現状	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点	
成果指標	◇ 自分には良いところがあると思っている生徒の割合(鳴門ア) ◇ 人権学習で学んだことが日常生活で行動できていると考えている生徒の割合(学校ア)	68.9%	68.9%	75.7%	【総括】 ○学級活動や生徒会活動、学校行事など、生徒が活躍できる場が増えつつあることで、生徒の自己肯定感や自己有用感が高まってきている。 今後、お互いを認め合い、生徒一人ひとりが安心して生活することができる学級集団、学年集団づくりに取り組んでいく。 ○様々な人権課題に対して、生徒の実態に応じて系統的な人権教育や道徳教育に取組んでいくとともに、保護者や地域への啓発も行っていく。			
道徳・人権教育	仲間づくり・集団づくりの取組	・いじめや暴力等の問題に適切に対応していると考えている保護者の割合(鳴門ア)	85.1%	83.5%	88.1%	○日頃から保護者と連絡を取りあえた。トラブルが起こった際は、担任だけでなく学年で対応を検討し、解消に向けて動くことができた。 △SNSでのいじめは気づいた時には大きなトラブルになっていることが多く、未然に防ぐために保護者への呼びかけと、連携をより一層していく必要がある。 ○道徳ノートの型を利用して、周囲の友達と意見を交流しながら他者の価値観に触れること、そして自分の意見を見つめなおすこと、またそれによって新しい学びを得ることを大切にできた。生徒の感想にも「相手目線」で考えることの大切さに触れたものが多かった。 ○北勢同研以降、本校での人権学習の在り方は授業実践・生徒・職員共に定着したと言える。(以前40～50%代)今までの実践だけに頼るだけではなく、より内容の充実した職員研修・授業計画が必要である。	・教師が課題に対して充分理解しながら取り組んでいることが大事なこと。 ・いじめの発生原理は、家庭の中での生活態度によるものが大きいと思われる。保護者への教育も必要である。人に対する思いやり不足が起因している。 ・人権教育は大切だと思うので、継続していくことが大事。 ・「いじめや差別をしない強い気持ちを持っていると考えている生徒」さんが多いのは嬉しいですが、とても難しい問題ですが、意識していくことが大切だと思います。 ・SNSのトラブル問題は中々解決が難しいと思います。だから、学校の授業で取り入れてもらったり、生徒向けや保護者向けの講演会等をして頂けたらいいと思います。 ・中学校区での人権教育の実践交流会を今後も推進して行って欲しい。	・「他者の価値観に触れること」について、そこから気づきや学びを得られるということを生徒たち一人ひとりに実感させられるような授業づくりを心掛ける。 ・「人権カリキュラム」を中心に、毎年引き継ぐべき人権課題と、年度毎の生徒に合った人権課題を教員研修を軸に、授業実践を行っていく。
		・計画的に人権学習に取り組んでいると考えている教師の割合(学校ア)	85.8%	84.0%	77.4%			
		・人に対する思いやりが大切にされていると考えている生徒の割合(鳴門ア)	85.8%	83.6%	87.0%			
		・生徒同士が互いに認め合うことができていると考えている教師の割合(鳴門ア)	81.4%	75.0%	82.3%			
		・いじめや差別をしない強い気持ちを持っていると考えている生徒の割合(学校ア)	94.9%	95.5%	96.1%			
不登校対策	初期支援体制の充実	・集団づくりや学級経営への工夫改善を組織的にできていると考える教師の割合(鳴門ア)	88.4%	80.0%	87.1%	○校内適応教室を利用している生徒の様子を共有し新学期の目標を決める会議を持つ事により、教室に入る事のできる人数が増えていった。 ○支援部会や学年会での情報共有で状況を把握し、SCやSSWにつなぐ事ができた。また、その助言を元に動くことができた。 △発達に課題を持っていると思われる生徒の不登校が増えており、その生徒の登校支援や登校時の対応に苦慮している。	・教師一人ひとりの苦勞が目に見えるようです。 ・教室に入ることの出来る人数が増えた事は、すごく良いことだと思えます。発達に課題を持っている生徒に対して、時間はかかりますが、保護者の協力の元ゆつくりと対応して解決していければいいなと思います。 ・不登校の子どもとその保護者のメンタルにも今後支援をお願いしたい。	・小学校と連携をとり情報共有をすることで生徒の様子や環境を知り、初期のサインを見逃さないようにする。 ・様々な課題を抱え、支援が必要な生徒に対して、担任だけではなく関係機関との連携をはかると共に、組織的に関わっていく。
		・生徒が基本的な生活習慣を定着させるよう、指導していると捉えている保護者の割合(学校ア)	89.9%	88.4%	88.1%			
特別支援教育	教職員の資質向上	・配慮を要する生徒への工夫改善を組織的にできていると考える教師の割合(鳴門ア)	95.2%	92.7%	88.7%	○校内研修に講師を招聘し、すずっこファイルの活用の仕方や難聴理解とその支援方法を学び、特別支援教育への理解を深め、配慮を必要とする生徒への対応力を身につけることができた。 △個々の生徒の実態に応じた題材や発問等の工夫をしたり、見守りたい生徒を中心とした仲間づくりや授業づくりをさらに継続したりしていく必要がある。	・努力がうかがえます。 ・「すずっこファイル」を大切に引き継ぎ、複眼的に見守って欲しい。	・引き続き、すずっこファイル作成後も担任を含め教科担当や部活動顧問等がファイルを随時確認し、丁寧な引継ぎをしていく。 ・生徒の実態把握に努め、すずっこファイルの具体的な支援の手立てや手立ての評価・考察等の欄に追記し、授業づくりにいかしていく。
		・個々の生徒のレベルに応じた教え方をしていると考えている保護者の割合(学校ア)	61.9%	58.7%	57.9%			
生徒支援	主体的な学習活動の実施	・自分のことに自信が持てるよう教え方を工夫していると考えている保護者の割合(鳴門ア)	80.9%	78.3%	82.2%	○各教科の授業でペアやグループでの学習、班活動など生徒同士が協働して取り組む時間をつくることで、互いを認め合い、自分の意見に自信が持つことができるようになった。	・様々な取組に感謝します。	・各教科の学習において、生徒が主体的に取り組める教材や学習場面を設定する。 ・学級活動等の場面で、承認活動をもつと積極的に取り組めるようにする。
		・自分もやればできるという思いを持っている生徒の割合(鳴門ア)	80.8%	80.7%	83.0%			
成果指標	◇ 学校が教育課題の改善に取り組んでいると捉えている保護者の割合(学校ア) ◇ 教育方針をわかりやすく伝えていると捉えている保護者の割合(鳴門ア) ◇ 学校が身近に感じられている保護者の割合(学校ア)	72.4%	73.9%	82.6%	【総括】 ○様々な教育課題等について、学校と保護者・地域との情報共有や意思疎通を積み重ねていく。 ○新型コロナウイルスが5類に変更されたことにより、再会した学校行事等の活動内容をよりよく改良していく。 ○幼小中の連携を図るために、人権教育推進担当者会をはじめ、校区の合同研修会や合同学校運営協議会等の取組をさらに充実させていく。			
地域ぐるみの教育	積極的な情報発信	・通信やHPなどで情報が提供されていると考えている保護者の割合(鳴門ア)	89%	81.1%	88.6%	○学校通信をはじめ、学年通信や学級通信を通じて、積極的に情報発信を行うことができた。また、メール配信を通じて保護者への情報共有を有効に行うことができた。 △ホームページの内容を充実させ、生徒や保護者がアクセスしやすくなるような内容に少しずつリニューアルしていく。	・情報発信は大事なことです。 ・ホームページを魅力的なものにして頂きたい。 ・ホームページの内容が分かりやすく、学校の状況が得やすい。 ・学校通信を地域へ回覧して下さることは、学校の様子がよく分かり、非常にありがたい。	・学校通信や学年通信の発行とともに、HPへの掲載や地域回覧により、積極的に情報発信を行っていく。 ・メール配信を有効に活用していく。 ・HPをこれまで以上に魅力的なものにしていく。
		・学校が、保護者の意見を聞こうとしていると考えている保護者の割合(鳴門ア)	73.10%	77.7%	83.2%			
		・電話連絡や家庭訪問、学校行事を通じて、日常的に保護者の声に丁寧に耳を傾けることができた。また、対話の中で、学校の活動や取り組み、思いも伝えることを心掛けた。 △保護者や地域の声に対して、真摯に耳を傾け、内容によっては、学年あるいは全職員で共有し対応していく。				・今後も継続して欲しい。 ・運営協議会だけでなく、地域に情報共有をする会を行って欲しい。 ・学校アンケートなど前向きにPTAとの関係を図って、とても良い。 ・今後も、学校、PTA、地域と協力して風通しの良い学校作りをして頂きたいです。 ・個人的な意見ですが、子どもの指摘部分の連絡はありますが、良かったところ等も聞けると嬉しいです。	・PTAや学校運営協議会、地域関係者等との連携を図り、交通安全や家庭学習の定着にむけての課題に取り組む。 ・学校アンケート等からの保護者の声を大切にし、教育活動の積極的な充実を図る。	
成果指標	◇ 時間外労働時間の対前年度縮減率(学校調査) ◇ 80時間超の過重労働を報告した教職員の割合(学校調査)	▽2.4%	▽15.3%	▲46.5%	【総括】 ○管理職や事務職員、担当職員の共通理解のもと、学校予算等の計画的な執行を検討し、学校施設・設備の修繕や教育環境改善に取り組んでいく。 ○教職員の業務の効率化を進めるとともに、校務分掌や業務内容の見直し等、勤務実態に基づいた具体的な改善策を検討していく。 ○教職員の総勤務時間の縮減について、保護者や地域の理解を求めていく必要がある。			
学校教育環境	学校修繕中長期プラン作成	・学校は施設・設備の充実に努めていると考えている保護者の割合(学校ア)	71.4%	71.2%	84.7%	○現在進行中の校舎改修工事において、教職員の要望とともに、学校運営協議会に進捗状況を共有するとともに、工事途中にも意見を頂きながら、準備を進めることができている。 ○校舎内外の施設の修繕やクラブ用品等の購入など、学校内の予算の中で有効に執行ができるように努めている。 △交通ルールやマナーについて、保護者や地域の声を聴く機会を大切にし、安全に登下校ができるように、日々の交通指導や安全指導の充実を図る。	・今後も継続して欲しい。 ・交通ルールやマナーはとても良くなっている。「あいさつ」も素晴らしい。 ・自転車の道路交通法改正にともない、登下校のさらなる指導の強化を地域の協力を得て実施の必要性ありと思う。 ・生徒の交通安全に対する意識の向上の取組の成果がみられるが、下校時の交通指導の強化もお願いしたい。	・校舎改修において、教職員の要望や学校運営委員のアドバイスを受けながら、積極的に意見を行っていく。 ・学校予算等の計画的な執行の検討と教育環境整備を進めていく。 ・改修工事の進捗状況等を、保護者や地域(学校運営協議会)に発信していく。 ・交通ルールやマナーについて、交通指導を継続していく。
		・学校が防災や防犯、事故防止によく配慮していると捉えている保護者の割合(鳴門ア)	88.7%	88.2%	93.0%			
		・80時間超の過重労働を報告した教職員の割合(学校調査)	4.7%	0.9%	12.5%	○少しずつではあるが、勤務時間の縮減や休暇取得に対する職員一人ひとりの意識が高まってきている。過重労働の職員も一定数いるが、皆で声を掛け合いながら、時間を意識するようになっていく。 △教職員一人ひとりの校務分掌や業務内容の見直しが必要である。教職員の余裕を生み出す工夫を行い、子どもと関わる時間を増やしてより丁寧な指導を行っていきたい。	・それぞれ頑張っていると思う。 ・効率の良い働き方改革を行い、各自の時間を見直すとゆとりも出てくると思う。 ・教師の仕事の内容を見直して、改善できる所を見つけて時短する。 ・相変わらず先生方はお忙しかれていると感じます。できることは外部の方に助けてもらって、先生もゆとりを持って授業等に向き合ってもらいたいです。 ・教職員の負担を軽減する為に、部活動が外部委託して負担が少しでも少なくなればと思います。	・行事等の精選や内容検討など、現状に即した変更や修正を適宜行っていく。 ・昨年度より精選や見直しが行われた教育活動については、来年度以降も継続していく。 ・保護者や地域の理解を求めていく。